

ごあいさつ

Seasar Foundation 代表理事
橋本正徳 [株式会社 ヌーラボ]

「The Seasar Project」が誕生したのが、2004年。それから、5年が経過して、2009年6月現在、175名のコミッターを抱える大きなオープンソース・ソフトウェア開発者コミュニティとなりました。

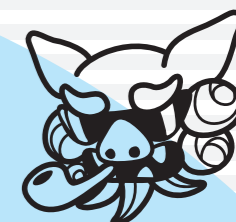
技術の発達は早いもので、メインプロダクトである「Seasar2 (S2Container)」が、実現している「DIコンテナ」という仕組みも、登場したときは「新しい技術」として、注目されていたのですが、現在では、多くの方々に利用され、「枯れた技術」と呼ばれるようになっていきます。

また、国内のオープンソース・ソフトウェア(以下OSS)のメリットも、広く理解されるようになり、例にとると、(少し古い話ですが)2007年のIPAの地方自治体に置くOSSへの期待調査では、「業務分類やシステム階層分類などに応じてOSSを採用していくべき」という意見が85%を超えを積極的に採用したいという結果がでています。これからも、国内の情報システムを支えるテクノロジーとして、OSSは多くの技術者に使われて、生活の基盤として利用される情報システムの、縁の下の力持ちとして存在し続けるのでしょう。

しかしながら、そのほとんどは、海外で作られたOSSに頼っているように思えます。その仮説が正しければ、国内の情報システムのほとんどの部分が、海外製品で構築されていることになり、日本はさながら、ソフトウェア輸入大国のようになっていることでしょう。

Seasar Foundationは、その状況を踏まえて、国内で開発されたOSSの知的財産権を継続的かつ、透明性高く運用管理し、国内はもとより、世界中に影響力を発揮させることに挑戦いたします。そのために、OSS開発者の連携感を

醸成し、勇気づけ、コミュニティを活性化させます。また、コミュニティとして、良い成果がでましたら、Seasar Foundationにみならず、活動の成果を他コミュニティへもお伝えし、日本のIT業界全体の底上げの実現を目指します。小さなことの積み重ねになると思いますが、幸いにして、皆様のご協力を頂いていることを、私たちの励みとして、活動いたします。また、これからも皆様のご支援を宜しくお願いいたします。



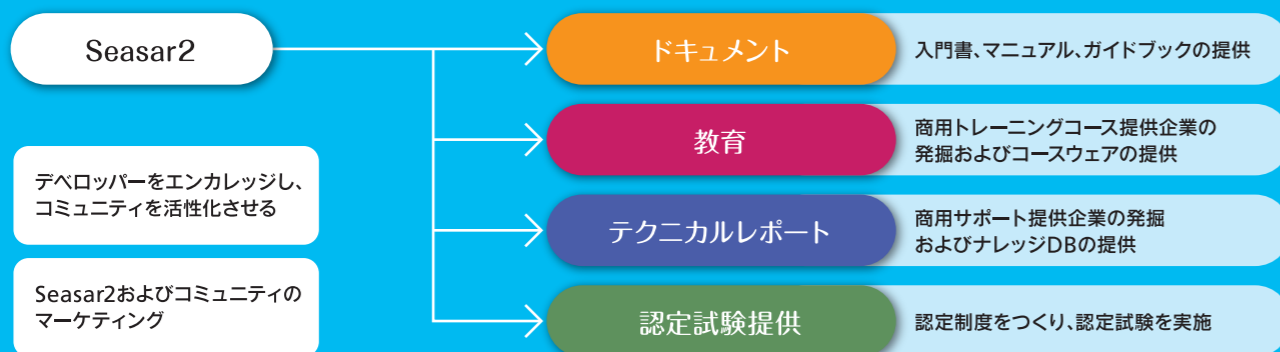
Seasar Foundationは、さらに大きく成長します!

OSSビジネス発展のための支援活動

Seasar Foundationでは、オープンソース・ソフトウェアの開発を支援するための基金として、企業からの寄付などによりSeasar基金の設立を進めています。Seasar FoundationはSeasar基金の事業によりエンタープライズ・ユーザーの要望に応えることでSeasar関連ビジネスを創出・拡大しエコシステムを活性化させていきます。そのことによりSeasar基金への新たな出資者が現れ、Seasarプロダクトの

安定性の向上のために基金を活用します。また、この活動に理解を示していただき、行動していただくことで、さらにオープンソース技術者や地方のIT技術者の雇用の拡大を期待します。そのように、Seasarプロジェクトのコミッターが増加し、オープンソース・コミュニティが拡大するという好循環を作りたいと考えております。

Seasar2発展のための支援活動



Seasar2の製品をメンテナンス・サポート

Seasar2は開発から5年が経ち、現在多くの情報システムに導入されています。「Seasar基金」は、将来的には、オープンソース・ソフトウェアを開発する個人および団体に対して、おもに人件費を直接支援することを想定しています。それは、オープンソース・ソフトウェア開発者の多くは昼間仕事をして、夜や土日のプライベートな時間を削ってソフトウェアを開発しているのが現状なので、開発者を経済的に支援することで、平日の昼間に開発ができるようにしたい」という気持ちが発端でした。しかしながら、企業様から基金を募るにあたり、「Seasar2」と関係の薄いところに力を入れても理解が得られない、まずは「Seasar2」の利用者から期待をされているメンテ

ナンス・サポートをし続けることに力を入れるべきというところに、到達いたしました。そこで、「Seasar基金」で実施する事業として、まず「ドキュメント」「教育」「テクニカルサポート」「認定試験制度」の4事業に着手します。例えば、教育であれば教材はオープンソースウェアとして無償で公開し、企業がこのコースウェアを使い有償のセミナーを実施するといった形態を検討しています。また、「テクニカルサポート」では、Seasar関連プロダクトの利用者からの質問窓口である「メーリングリスト」の今までのログを整理し、「ナレッジデータベース」を構築することを検討しています。

